0612873HE2607

MITSUBISHI

三菱電機フリープランシステム

外気処理ユニット（業務用ロスナイ天吊埋込形加熱加湿付直膨タイプ）

形　名

R407C対応

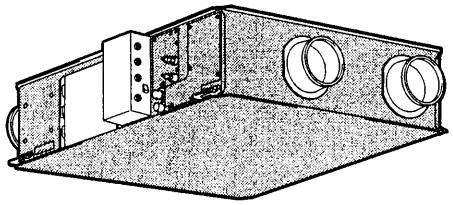
LGH-50RDF$_3$
LGH-80RDF$_3$
LGH-100RDF$_3$

R407C・R410A対応

LGH-50RDF$_4$
LGH-80RDF$_4$
LGH-100RDF$_4$

取扱説明書

お客さま用



もくじ

ページ

安全のために必ず守ること……2
特　長……2
各部のなまえとはたらき……3
使いかた……4～10
お手入れ……10～12
保守点検……13～15
「故障かな？」と思ったら……15
アフターサービス……16
仕　様……16

★ご使用の前に「安全のために必ず守ること」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
★お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに、「三菱電機　修理窓口・ご相談窓口のご案内（冷熱品）」とともに大切に保管してください。

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
No servicing is available outside of Japan.

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠ 警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠ 注意	誤った取扱いをしたとき、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

禁止	**可燃性ガスが漏れた場合はコントロールスイッチを入・切しない** （電気接点の火花により爆発する原因になります） **窓を開けて換気する**
分解禁止	**改造や必要以上の分解をしない** （火災・感電・けがの原因になります）
水ぬれ禁止	**製品を水につけたり、水をかけたりしない** （火災や感電のおそれがあります）
指示に従い必ず行う	**定格電圧、制御容量範囲で使用する** （間違った電圧で使用すると火災や感電の原因になります）
	お手入れの際は必ず分電盤のブレーカーを切る （通電状態では感電やけがをすることがあります）
	異常時（こげ臭い等）は、運転を停止して分電盤のブレーカーを切り、お買上げの販売店または「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」に相談する （異常のまま運転を続けると故障や感電・火災等の原因になります）
	凍結のおそれのある地域では、必ず凍結防止工事を行う （電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因になります）

禁止	**外気処理ユニットの風が直接あたるところに燃焼機器を置かない** （不完全燃焼による事故の原因になることがあります）
	冬期、室内を暖房しているとき、「普通換気」で運転しない （本体から結露水が天井面に滴下して、天井面を汚すおそれがあります）
	高温（40℃以上）や直接炎があたったり、油煙の多い場所には使用しない （火災のおそれがあります）
	機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所には使用しない （故障の原因になります）
指示に従い必ず行う	**お手入れ後の部品の取付けは確実に行う** （落下によりけがをすることがあります）
	お手入れの際は手袋を着用する （着用しないとけがの原因になります）
	長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る （絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります）

特　長

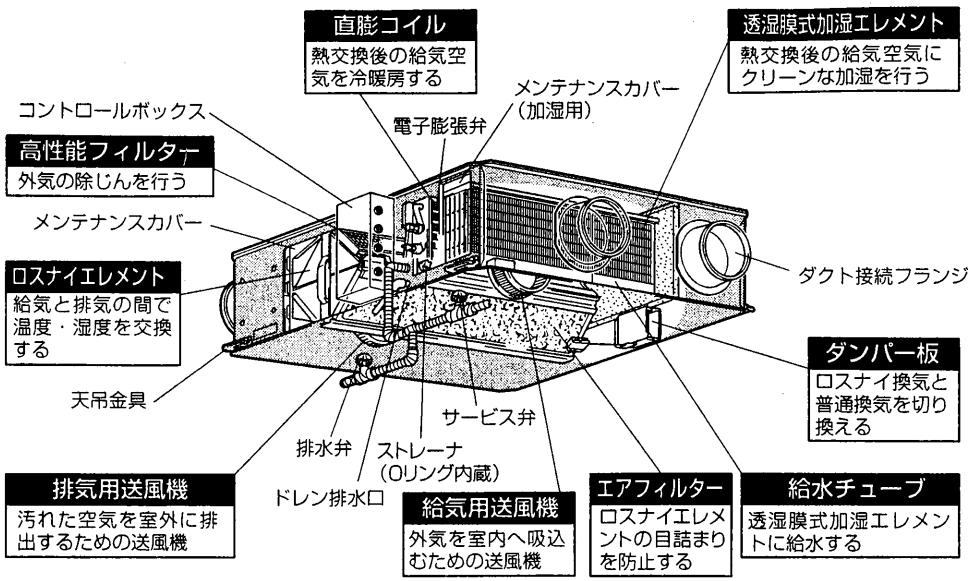
最近のオフィス等は気密性が良く、冷暖房効果・しゃ音効果が高いというメリットがあります。
その反面、換気不足による室内空気の汚染・結露の発生など健康を損なう心配もあります。

そこで外気処理ユニットによる換気が必要になります。
外気処理ユニットは……室外の空気を室内の温・湿度に近づけながら室内に給気するとともに、汚れた空気を室外に排気します。

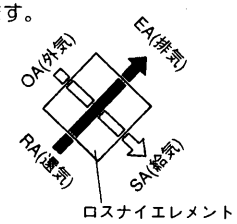
主な特長

1	強制同時給排なので **新鮮空気**	強制同時給排機能によってきれいな外気を取り入れながら汚れた空気を排気します。だから室内の空気は新鮮です。
2	ロスナイエレメントの働きで **快適温度**	ロスナイエレメントの働きにより外気を室温に近づけて給気しますので、暖かさ・涼しさを保ちながら換気します。
3	熱ロスが少ないから **省エネ**	室内の暖かさ・涼しさを保ちながら換気ができるので、冷暖房時の熱ロスが少なく冷暖房費も節約できます。
4	特殊構造により **防音効果**	室外騒音の侵入を防ぎ、室内音の音もれを抑えます。
5	透湿膜式加湿エレメントによる **クリーンな加湿**	透湿膜式加湿エレメントを採用。水蒸気だけを透過させ白粉のないクリーンな加湿を実現します。

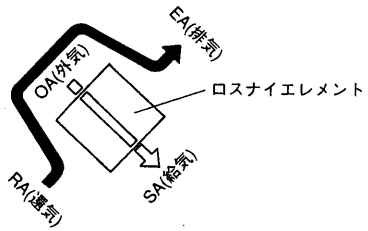
各部のなまえとはたらき



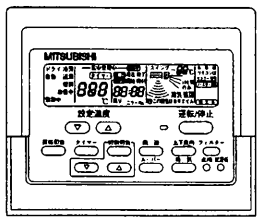
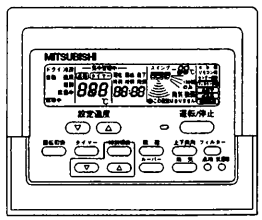
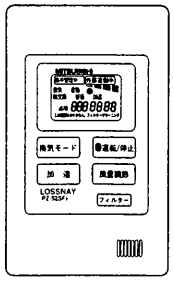
● **「ロスナイ換気」とは……**
室内空気をロスナイエレメントを通して室外に排気します。熱交換された外気が室内に供給されます。冷暖房をしている夏・冬には「ロスナイ換気」で運転します。



● **「普通換気」とは……**
室内の汚れた空気をロスナイエレメントを通さずそのまま排気します。熱交換を必要としない春・秋には「普通換気」で運転します。



使用するリモコンスイッチ

MEリモコン：PAR-F27ME	MAリモコン：PAR-20MA	ロスナイリモコン：PZ-52SF3
		

使いかた

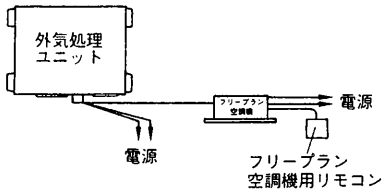
**この製品は三菱電機フリープランシステムに組込まれて使用するものです。
運転については、空調機に連動して空調機の操作により行います。
加湿器は外気処理ユニットが暖房運転中のみ運転を行います。**

●暖房時、製品本体の結露防止のため「ロスナイ換気」で運転してください。なお、外気が8℃以下で自動的に「ロスナイ換気」となります。
空調機または外部機器と連動運転をする場合や連動しない場合により、使いかたが異なりますので、下表に従って該当する操作を行ってください。

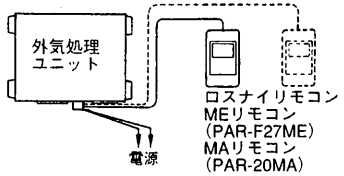
メモ

●ロスナイリモコン(PZ-52SF3等)をご使用の場合は、ロスナイリモコンの取付・取扱説明書も合わせてご覧ください。

〈空調機と連動する場合〉

システム例	操 作	機能説明
	空調機用リモコンで「運転」または「停止」すると自動的に外気処理ユニットも「運転」または「停止」します	●空調機用リモコンで外気処理ユニット単独の運転／停止、風量の強／弱切り換えができます。(MAリモコン・MEリモコン使用時) ●換気モードは「換気モード自動切換」になります。 ●外気処理ユニットの運転モードは運転している室内機と同じモード（暖房、冷房、送風）で運転します。また連動している室内機が複数で、それぞれ運転モードが違う場合は、暖房＞冷房＞送風の優先度で運転モードが決まります。

〈単独運転の場合〉

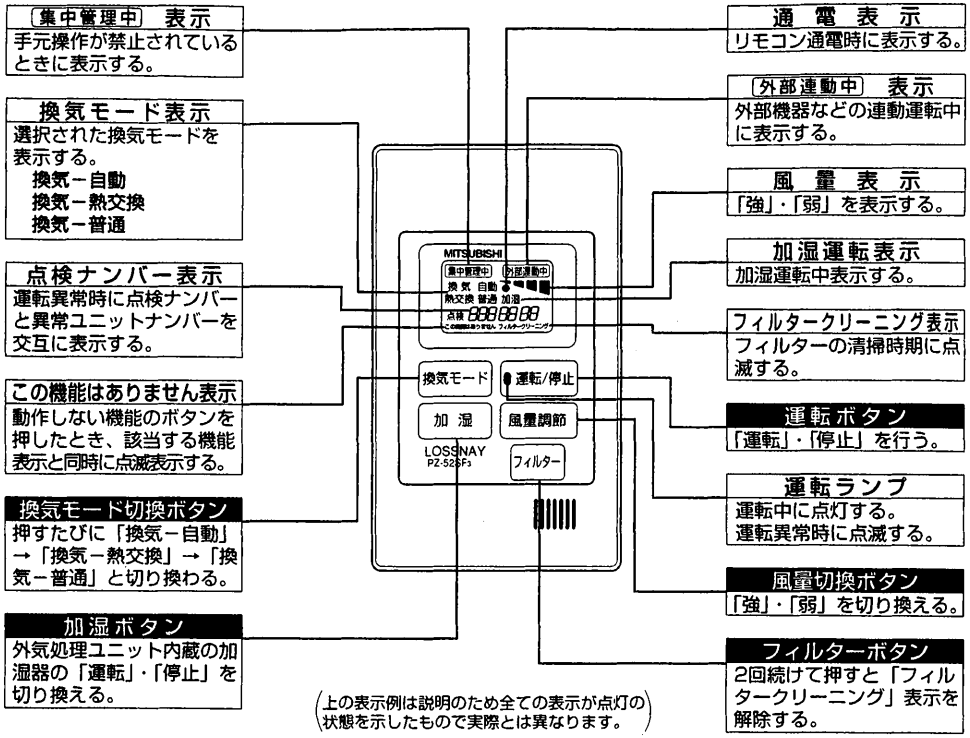
 ※リモコンはシステム部材	リモコンで運転する	●リモコンが2台ある場合は後押優先となります。

お願い

●**加湿シーズン終了後、および加湿シーズン以外で、試運転や立会検査実施後は、給水バルブまたはサービス弁を閉止し、加湿器の乾燥運転を行ってください。また加湿シーズン中においても長期間（2～3週間以上）運転しない場合には、加湿器の乾燥運転を行ってください。加湿器の乾燥運転は、加湿「切」、「ロスナイ換気」、「強」ノッチ運転で累計24時間以上運転してください。乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し、異臭を生じることがあります。**

●**異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。**

＝ロスナイリモコン（PZ-52SF3）使用の場合



（上の表示例は説明のため全ての表示が点灯の状態を示したもので実際とは異なります。）

メモ

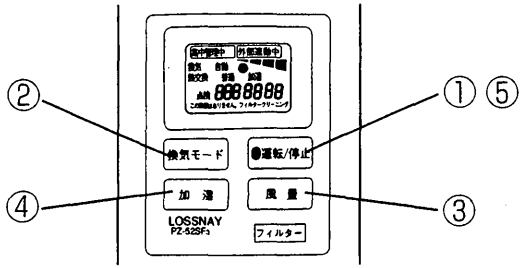
●停電復帰後や再度分電盤のブレーカーが入ったときに、換気モードは前のモードと同一になります。
●設定する機能がないボタンを押した場合は「この機能はありません」と表示されます。

お願い

●MEリモコンあるいは、MAリモコンによる空調機と連動設定されている外気処理ユニットには、本リモコンは使用できません。（連動設定機の併用禁止）

使いかた つづき

ロスナイリモコン操作手順



〈最初の運転〉

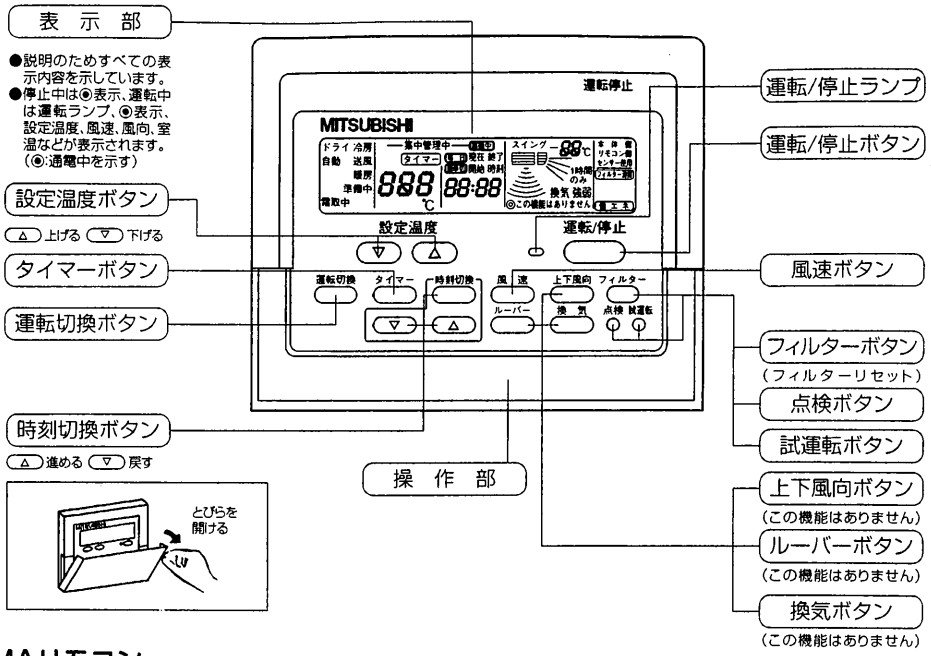
操作項目	操作部	表示部	手順
電源を入れる	ブレーカー「ON」	HO	電源を入れると「HO」が最大10分間点滅する ●ダンパーが位置検出のため動作する

〈通常の運転〉

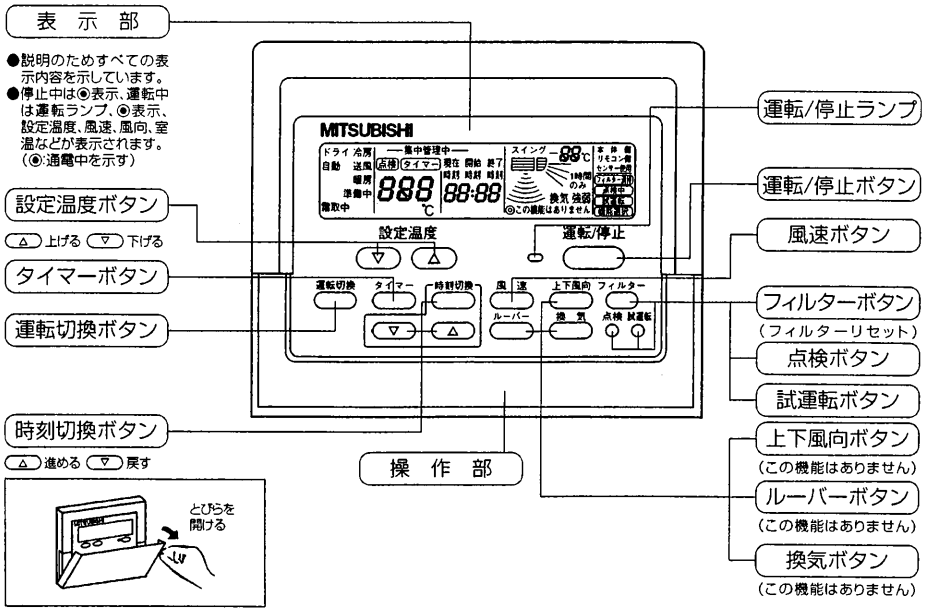
操作項目	操作部	表示部	手順
①運転開始	ブレーカー「ON」 運転/停止 運転ランプ	換気 自動	**運転ボタンを押す** （運転ランプ点灯）
②換気モードの設定	換気モード	換気 熱交換 ※「熱交換」固定を示す	**換気モード切換ボタンを押すたびに** 「熱交換」固定→「普通換気」固定→「自動切換」と切り換わる
		「自動切換」の場合 換気 自動	2秒後に状況に合わせて「熱交換」固定か「普通換気」固定に表示が切り換わる
③風量調節	風量調節	換気 自動	**風量切換ボタンを押すたびに** 「強」→「弱」と切り換わる **弱の場合** **強の場合**
④加湿の入/切	加 湿	換気 自動 加湿	**加湿ボタンを押す** 表示部に「加湿」が表示され加湿開始 再度加湿ボタンを押すと「切」になり表示が消灯する
⑤運転停止	運転/停止 運転ランプ		**運転ボタンを押す** （運転ランプ消灯、通電表示のみ）

＝MEリモコン・MAリモコン使用の場合

■MEリモコン

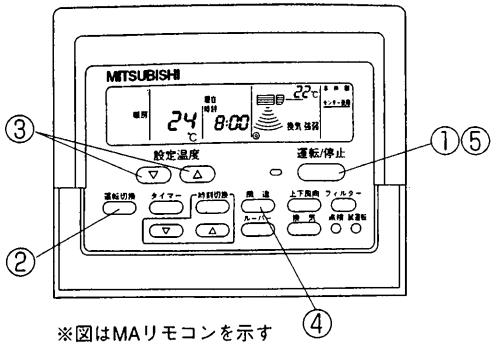


■MAリモコン



使いかた　つづき

MEリモコン・MAリモコン操作手順



※図はMAリモコンを示す

〈最初の運転〉

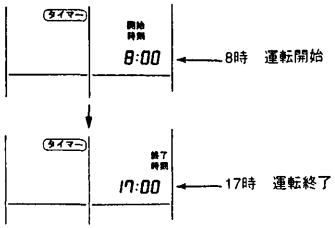
運転開始の前に‥‥電源が入っているか確認する
停電や電気工事または外気温度が10℃以下で24時間以上電源を切って放置した場合は電源を入れてから12時間以上運転をお待ちください。

〈通常の運転〉

操作項目	操作部	手順
①運転開始	運転/停止	**運転／停止ボタンを押す（運転/停止ランプと表示が点灯）**
②運転モードの設定	運転切換	**運転切換ボタンを押す** ●1回押すごとに設定が切り換わります。 冷房 → 送風 → 自動※1 → 暖房※1 ※1 室外ユニットの機種により、自動･暖房機能がない場合があります。
③設定温度の変更	設定温度 ▽ △	**■設定温度を下げたいとき…▽設定温度ボタンを押す** **■設定温度を上げたいとき…△設定温度ボタンを押す** ●1回押すごとに設定温度を1℃変えられます。 ●室内機の設定温度に合わせてください。
④風速切換	風速	**風速ボタンを押す** ●1回押すごとに以下のように設定が切り換わります。 風速：2段階　リモコン表示：(弱) → (強) **お知らせ** ●下記の場合は、液晶表示とユニットの風速が異なります。 1.“霜取中”表示のとき 2.暖房運転直後（モード切換待機中）
⑤運転停止	運転/停止	**運転／停止ボタンを押す**（運転/停止ランプ消灯、通電表示のみ） ※運転停止後5分以上待ってから電源を切る。

〈MAリモコンの場合のタイマー運転〉

タイマー設定表示例



※MEリモコン：PAR-F27MEのタイマー運転の操作手順はMEリモコンの取扱説明書を参照してください。

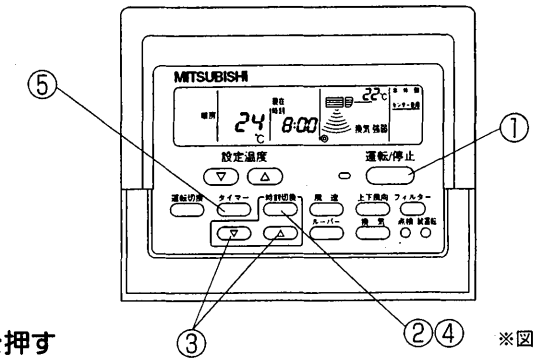
■タイマー運転には次の3つの方法があります。

1. 入タイマー運転　運転の開始のみをタイマーで行う
2. 切タイマー運転　運転の停止のみをタイマーで行う
3. 入・切タイマー運転　運転・停止の両方をタイマーで行う

■タイマー運転の設定は、24時間以内に入・切各1回以内です。

■タイマー運転中の（タイマーの表示がされているとき）は時刻設定・変更はできません。

■タイマー時刻設定は10分単位です。



※図はMAリモコンを示す

①運転／停止ボタンを押す

■現在時刻合わせ

操作項目	操作部	手順
②現在時刻を表示	時刻切換	時刻切換ボタンを押し、表示を「現在時刻」にする ●1回押すごとに以下のように切り換わります。 現在時刻 → 開始時刻 → 終了時刻 → 表示なし
③時刻設定	▽ △	△ ボタンを1回押すごとに1分進み、▽ ボタンを1回押すごとに1分戻る ●ボタンを押し続けると早送り（早戻し）になります。 ●時刻は1分単位→10分単位→時間単位の順に変化します。

■入タイマー運転のしかた

操作項目	操作部	手順
②開始時刻を表示	時刻切換	時刻切換ボタンを押し、現在時刻を確認して表示を「開始時刻」にする
③時刻設定を「現在時刻合わせ」を参考に行う		
④終了時刻の設定	時刻切換	時刻切換ボタンを押し、表示を「終了時刻」にする --:-- の表示に設定する ● --:-- の表示は23：50と0：00の間に表示されます。
⑤タイマーを表示	タイマー	タイマーボタンを押し、表示を「タイマー」にする ●1回押すごとに消灯⇄「タイマー」に切り換わります。

使いかた　つづき

■切タイマー運転のしかた

操作項目	操作部	手順
②終了時刻を表示	時刻切換	時刻切換ボタンを押し、現在時刻を確認して表示を「終了時刻」にする
③時刻設定を「現在時刻合わせ」を参考に行う（9ページ）		
④開始時刻の設定	時刻切換	時刻切換ボタンを押し、表示を「開始時刻」にする --:-- の表示に設定する ● --:-- の表示は23：50と0：00の間に表示されます。
⑤タイマーを表示	タイマー	タイマーボタンを押し、表示を「タイマー」にする ●1回押すごとに消灯⇄「タイマー」に切り換わります。

■入・切タイマー運転のしかた

1.入タイマー・切タイマー両方の設定をする
2.タイマーボタンを押し、表示を「タイマー」にする

■タイマー運転を解除するとき

●タイマーボタンを押して、表示を「タイマー」⇄消灯にする

メモ

●タイマー運転が終了して外気処理ユニットが運転または停止すると、次の運転は自動的に連続運転となります。

お手入れ

外気処理ユニットの機能低下を防ぐため、エアフィルター・ロスナイエレメントに付着したごみ・ほこりを定期的に清掃および高性能フィルターの交換をしてください。
製品内にもごみ・ほこりがたまっている場合は、製品内も清掃してください。

目安　エアフィルター……1年に1回以上（または、リモコンスイッチでフィルタークリーニング表示が点滅したとき）
ロスナイエレメント……2年に1回以上（できるだけ、1年に1回以上行ってください）
（汚れの程度に応じて清掃回数は増やしてください）
高性能フィルター……※約3000時間後交換

※ネットワークリモコンまたはユニットリモコンにて高性能フィルターの交換時期を フィルター 表示を点滅させてお知らせします。交換後フィルターボタンを2回押してリセットしてください。

⚠警告
●お手入れの際は、必ず分電盤のブレーカーを切る
（通電状態では感電やけがをすることがあります）

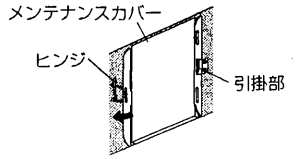
⚠注意
●お手入れの際は手袋を着用する
（着用しないとけがの原因になります）

■エアフィルターのお手入れのしかたには、下記2種類あります。
エアフィルターに枠がない場合 と エアフィルターに枠がついている場合 のいずれかをご覧ください。

各部品のはずしかた

エアフィルターに枠がない場合・エアフィルターに枠がついてる場合 共通

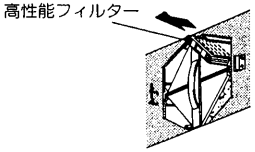
1



1.メンテナンスカバーをはずす
点検口から天井裏に入り、ヒンジをはずしてメンテナンスカバーを開いて引掛部から取りはずす。

お手入れ　つづき

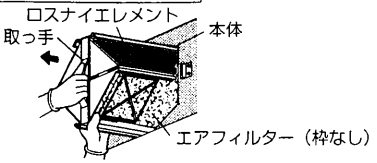
2



2.高性能フィルターを引き出す
ロスナイエレメントの右上側に入っている高性能フィルターを引き出す。(2枚)

エアフィルターに枠がない場合

3



3. ロスナイエレメントを引き出す
取っ手を持ち、フィルターが付いたままロスナイエレメントを本体から引き出す。

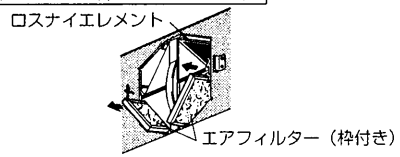
4

4. エアフィルターをはずす
フィルターストッパー８個（ロスナイエレメント１個につき４個）をフィルターガイドからはずし、エアフィルターをはずす。

お願い
- フィルターストッパーは、左図のように少ししならせるとフィルターガイドからはずれます。
  フィルターストッパーが破損しないように取りはずしてください。

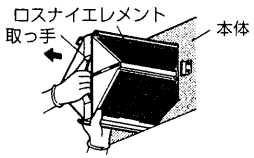
エアフィルターに枠がついてる場合

3



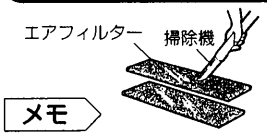
3.エアフィルターを引き出す
ロスナイエレメントの下側左右に１枚ずつ入っているエアフィルターを引き出す。

4



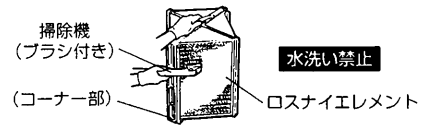
4.ロスナイエレメントを引き出す
取っ手を持ち、ロスナイエレメントを本体から引き出す。

各部品の清掃のしかた



※イラストは
エアフィルターに枠がない場合を示す。

メモ
- 交換用のエアフィルターがシステム部材として用意されていますので古くなったエアフィルターは交換してください。



1.エアフィルターの清掃
掃除機でほこりを吸い取る。
汚れのひどい場合は、水またはぬるま湯に中性洗剤を溶かして押し洗いをし、よく乾かす。

お願い
- 熱湯で洗ったり、もみ洗いはしないでください。
- 直接火にあてて乾かすことはしないでください。

2.ロスナイエレメントの清掃
掃除機でロスナイエレメントの表面のごみ・ほこりを吸い取る。
- 掃除機のノズルは、ブラシ付のものを使用し、ブラシを軽く当てて清掃する。

お願い
- 掃除機のかたいノズルを当てないでください。
  (ロスナイエレメントの表面が傷付きます)
- ロスナイエレメントは、絶対に水洗いしないでください。

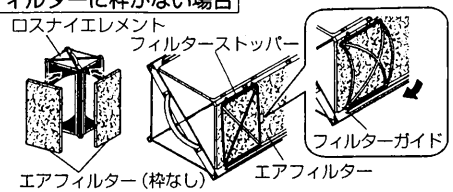
お手入れ　つづき

高性能フィルターの交換
高性能フィルターは繰返して使用できませんので、新しいものと交換してください。
詳しくは工事店・販売店にお尋ねください。

お手入れ後の組立てと確認 ……取りはずしと逆の順序で取付ける。

エアフィルターに枠がない場合

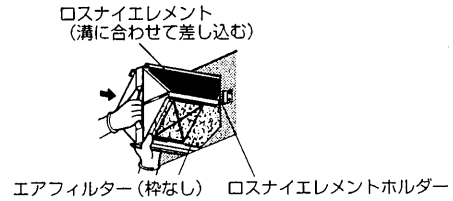
1



1. エアフィルターの取付け
エアフィルターをロスナイエレメントのフィルターガイドに合わせて取付け、フィルターストッパーで固定します。

お願い
- エアフィルターを取付けるときロスナイエレメントの表面を傷つけないようにしてください。
- エアフィルターは、フィルターストッパーで確実に固定してください。
- フィルターストッパーは、左図のように少ししならせてフィルターガイドに引掛け固定してください。
- エアフィルターを入れ忘れないようにしてください。ロスナイエレメントにごみが詰まり、風量低下の原因になります。

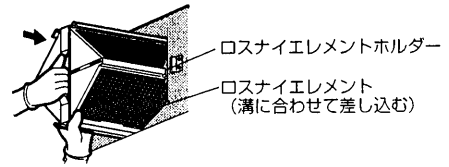
2



2. ロスナイエレメントの取付け
ロスナイエレメントのコーナー部（４か所）をロスナイエレメントホルダーに確実に差し込み、本体内に納める。

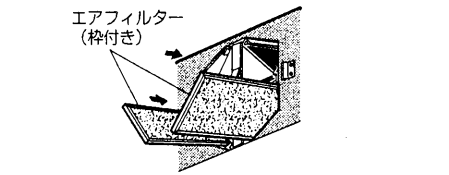
エアフィルターに枠がついてる場合

1



1. ロスナイエレメントの取付け
ロスナイエレメントのコーナー部（４か所）をロスナイエレメントホルダーに確実に差し込み、本体内に納める。

2

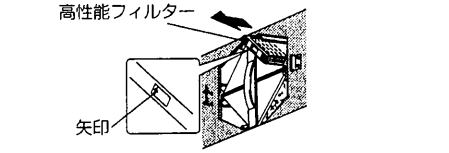


2. エアフィルターの取付け
ロスナイエレメントとロスナイエレメントホルダーの溝に合わせて差し込む。

お願い
- エアフィルターを出し入れするときロスナイエレメントの表面を傷つけないようにしてください。
- エアフィルターを入れ忘れないようにしてください。ロスナイエレメントにごみが詰まり、風量低下の原因になります。

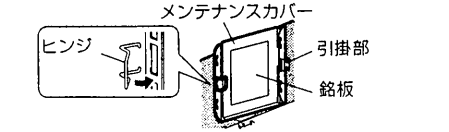
エアフィルターに枠がない場合・エアフィルターに枠がついてる場合 共通

3



3.高性能フィルターの取付け
矢印の向きが上になるように取付ける。

4



4.メンテナンスカバーの取付け
引掛部にメンテナンスカバーの穴を引掛け、ヒンジをかけて固定する。（銘板が読める方向に取付ける）

リモコンスイッチ使用の場合は、フィルターリセットボタンを２回続けて押してリセットします

保守点検 [工事店さま用]

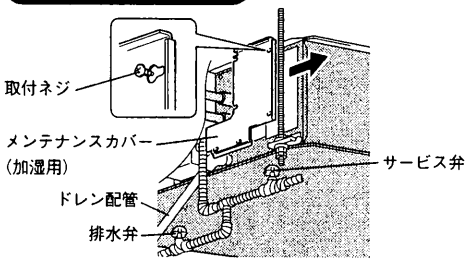
長い間ご使用いただくため、1年に1回を目安に下記の点検を工事店にご依頼ください。

■保守点検の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る。

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置方法	
ストレーナ	ごみによる目づまりの点検	目づまりが生じている場合は洗浄	加湿不能
	Oリング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は交換 ※注1	水漏れ
加湿エレメント	加湿エレメント表面からの漏水点検	加湿エレメント表面から水が吹き出す場合は交換 ※注2	水漏れ
	加湿エレメント表面のごみ・ほこり点検	ほこりで風路がふさがれている場合は掃除機にて傷つけないよう清掃、または14ページを参照し水洗いをする	風量低下 加湿能力低下

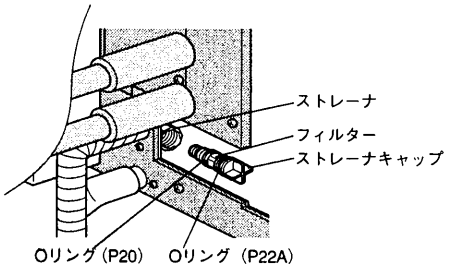
※注1……交換用Oリング：市販品　P22A、P20
※注2……結露等により少量の水が出る場合がありますが異常ではありません。

清掃前の準備



1.サービス弁を閉じる。
（残留水の飛散防止のため）
2.水漏れ対策をする。
●加湿エレメント内の水がこぼれます。天井裏にビニールシートを敷くなど水漏れ対策をしてください。
3.配管内の残留水を抜く。
●バケツ等で受けながら排水弁を開く。
4.メンテナンスカバー（加湿用）を取りはずす。
●取付ネジ7か所をゆるめ、メンテナンスカバーを右にスライドさせ、ダルマ穴からはずす。
（LGH-50タイプは6か所）

ストレーナ（フィルター）の清掃のしかた



1.ストレーナキャップを反時計回りに回してはずす。

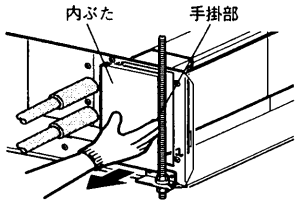
2.フィルターに付着した汚れを水で洗い落とす。

3.ストレーナキャップを取付ける。

加湿エレメントのはずしかた

左側は熱交換器、右側は吊りボルトがあります。両方にあたらないよう、奥側を右に振って出し入れしてください。

1



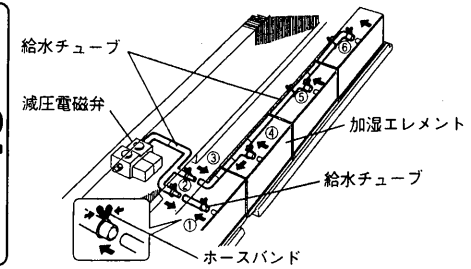
内ぶたを取りはずす

1.右側手掛部に指を掛け手前に引き出す。

2.両側を持って、手前に引き出す。

保守点検　つづき

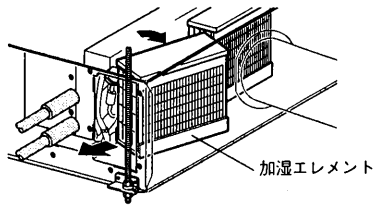
2



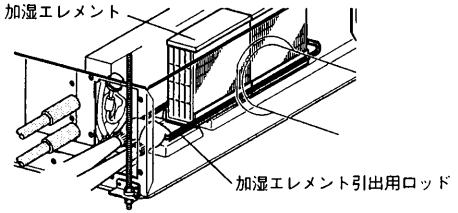
加湿エレメントから給水チューブをはずす
①～⑥部分のホースバンドをつまんで給水チューブをはずす。下記の「加湿エレメントを取り出す」の手順で手前の加湿エレメントを取り出しながら奥の給水チューブをはずす。

お願い
●給水チューブをはずすときは、ホースバンドをつまんでずらした後、チューブをはずしてください。
●減圧電磁弁から給水チューブを取りはずさないでください。
●給水チューブをはずすときは、本体内部のドレン受皿に水が落ちるようにしてください。

3



形名	個数
LGH-50タイプ	2
LGH-80タイプ	3
LGH-100タイプ	4



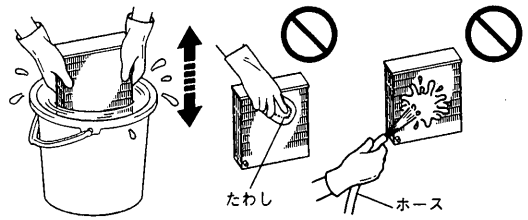
加湿エレメントを取り出す

1.加湿エレメントを手前に引き、奥側を右に振り、上に持ち上げて、斜めに引き出す。

2.3番目以降の加湿エレメントは加湿エレメント引出用ロッドを手前に引き、手が届く位置まで出してから取り出す。(LGH-80タイプ・100タイプ)

お願い
●加湿エレメント引出用ロッドは製品の外に出さないでください。
●加湿エレメントと一緒に給水チューブも引き出してください。(加湿エレメント内部に残っている水をドレン受皿に出してください)
●給水チューブは、折り曲げ・引っ張りなどしないでください。

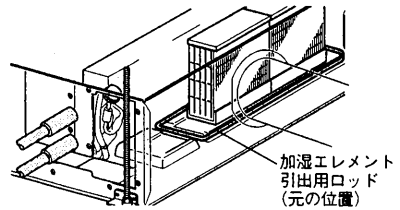
加湿エレメントの水洗いのしかた



バケツなどに水を入れ加湿エレメントを4～5回揺らすように上下させて、ごみ・ほこりを洗い流す。

お願い
●たわしでこすることはしないでください。
●直接ホースで水をかけないでください。(加湿エレメントが破損します)
●40℃以上の湯や洗剤は使用しないでください。

加湿エレメントの取付けかた



取りはずしと逆の順序で取付ける。
●LGH-80タイプ・100タイプの場合は、加湿エレメント引出用ロッドは元の位置に戻してから加湿エレメントを挿入する。
●給水チューブは確実に接続し、水漏れがないことを確認する。

点検後の確認

1.サービス弁を必要に応じて開ける。
●夏期は加湿を必要としない場合が多いため、サービス弁を閉じておくことをおすすめします。
2.冬期（加湿時期）は凍結防止用ヒーターの電源が入っているか確認する。
3.試運転を行い、水漏れがないことを確認する。

「故障かな？」と思ったら

次のような現象が生じた場合は下表を参照してお客さま自身で処置をしてください。

現　象	原　　因	処　　置
換気しない	●空調機が運転しない。	●空調機を運転し、外気処理ユニットの運転を確認する。
	●元電源が入っていない。	●元電源を入れる。
	●エアフィルター・ロスナイエレメントが目づまりしている。	●「お手入れ」に従って清掃する。
停止しない	●空調機が運転している。 ●外気処理ユニットが単独で運転している。	●空調機の運転を停止する。 ●ロスナイリモコン（PZ-52SF$_3$）で停止させる。
加湿しない	●空調機が暖房モードになっていない。 ●給水されていない。	●暖房モードにする。 ● サービス弁を開く。

上記の処置をしても改善されない場合は、お買上げの販売店にご相談ください。
また、リモコンに“点検”と何らかの点検コード表示（4桁）が表われたときはその内容を、お買上げの販売店にご相談ください。

次の場合は異常ではありません。

音がする	●運転中や停止時に「シュル、シュル」などと音がすることがあります。これは本体内部の冷媒が流れる音です。 ●冷暖房運転の開始後と停止したのちに「ピシッ」と音がすることがあります。温度変化で金属部分が膨張・収縮しておこる音です。
暖房時に冷たい風が出る	●外気処理ユニットからの吹き出し空気は一度空調機へ入れて室内へ吹き出すことを推奨していますが、空調システムによっては直接室内へ吹き出すことがあります。この吹き出し方法においては次に示すようなとき暖房運転中に冷風が吹き出します。吹き出し方向を変えるなどしてご使用ください。 ・運転開始時 ・運転を停止して再度すぐに（3分以内）運転したとき ・室外ユニット除霜運転時

アフターサービス

アフターサービスはお買上げの販売店かお近くの「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」にご相談ください。

異音がする、風が出ないなど異常があれば必ず電源を切って、お買上げの販売店へご連絡ください。点検・修理に要する費用などは販売店にご相談ください。

■補修用性能部品の保有期間

当社はこの外気処理ユニットの補修用性能部品を製造打切り後9年保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

加湿エレメントの交換時期について

水道水内の不純物や混入物質が加湿エレメント内に堆積するため、加湿能力は徐々に低下します。
●使用過程において加湿量が少なくなった場合は、加湿エレメントの交換（お客さまご負担）を検討願います。
●交換時期については、運転状況・水質によって異なりますが、5年(5000時間)を目安としてください。

仕　様

形　名	電源（V）	周波数（Hz）	消費電力（W）	定格風量（m^3/h）	外気負荷熱処理能力（kw） 冷房能力	外気負荷熱処理能力（kw） 暖房能力	加湿量（kg/h）	騒音（dB）	質量（kg）
LGH-50RDF$_3$	単相200V	50	235	500	5.46	6.18	2.70	33.5	57
LGH-50RDF$_4$		60	305	500				35.5	
LGH-80RDF$_3$		50	400	800	8.79	10.11	4.00	35	91
LGH-80RDF$_4$		60	510	800				36	
LGH-100RDF$_3$		50	515	1000	11.17	12.50	5.40	38	98
LGH-100RDF$_4$		60	725	1000				38	

※騒音値は無響室で測定した本体真下1.5mの値です。
※吹出口騒音（斜め45°、1.5m前方）は上記値より5～6dB程度高い値となります。
※上記の値はロスナイ換気強ノッチ時の場合を示します。

この製品はフロン回収・破壊法　第一種特定製品　です。

この製品には冷媒として、HFCが使われています。
（1）フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
（2）この製品を廃棄する場合には、フロン類の回収が必要です。
（3）フロン類の種類および数量は、室外ユニットの製品銘板に記載されています。

三菱電機株式会社
中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号 電話0573-66-2111

この説明書は、再生紙を使用しています。